

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第4回総会議事要旨

- 1 日時：令和3年6月8日(火) 13時30分～14時30分
- 2 場所：オンライン (Web 会議システム Zoom)
- 3 出席者：林 (会長)、甘利 (副会長)、遠藤 (副会長)、佐波、柳生、長瀬、真城、舟橋 (星川委員代理)、安部 (鎌田委員代理)、福島、玄地、岡部 (佐々木委員代理)、Li、岡島、石濱
陪席者：西田 (防災科学技術研究所)、松本 (〃)、倉谷 (〃)、田代 (〃)、藤原 (〃)、水井 (〃)、高田 (セコム)、島岡 (〃)、大野 (東急プロパティマネジメント)、桐原 (DRI ジャパン)、松木 (産業技術総合研究所)、梅本 (筑波大学)、西出 (〃)、古川 (〃)、木下 (〃)、斉藤 (〃)、高野 (〃)、秋葉 (〃)、鈴木 (〃)、根本 (〃)

(敬称略)

4 議事

議事に先立ち、林会長より、開会の挨拶があった。

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

【審議事項】

(1) 令和3年度総会・運営委員会委員について

遠藤副会長から、資料1-1～1-2に基づき、委員の交代について説明があり、原案のとおり承認された。続いて、新委員の玄地委員 (産業技術総合研究所) 及び佐々木委員代理の岡部氏 (労働安全衛生総合研究所) より挨拶があった。

(2) 令和3年度シンポジウムの開催について

西出准教授 (筑波大学, シンポジウム WG 座長) から、資料2に基づき、第4回シンポジウム、第5回シンポジウム (Joint Seminar 減災との共同シンポジウム) の開催案について説明があり、原案のとおり承認された。続いてテーマに関する意見交換が行われ、第4回シンポジウムは「ニューノーマルに基づくレジリエンス社会に向けて ~COVID-19 がもたらした気づき~」をタイトル候補とし、今後はWGを中心に検討・準備を進めることとなった。

(主な意見等)

- ・コロナ禍におけるマスコミのあり方について取り上げてはどうか。
- ・コロナ禍で浮き彫りになった日本の「学びのスピードの遅さ」は何に起因しているのかを考えてみてはどうか。
- ・1年前の状況を振り返り、あるべきレジリエンス社会の実現のためには、どこが分岐点だったかを考えてみても面白い。

(3) 令和3年度年間活動計画の修正について

遠藤副会長から、資料3に基づき、令和3年度年間活動計画の修正案が示され、原案のとおり承認された。追加された計画は次のとおりである。

- 第18回幹事会・第11回運営委員会・第4回シンポジウム
日時：10月13日 (水) 11:00～17:00 場所：オンライン
- 第19回幹事会・第12回運営委員会・第5回シンポジウム
日時：2022年1月～2月 場所：未定

(4) レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約の一部改正について

遠藤副会長から、資料 4 に基づき、スリーエムジャパン株式会社の退会及び東急ファシリティサービス株式会社の「東急プロパティマネジメント株式会社」への商号変更に伴う規約別表改正について説明があり、原案のとおり承認された。続いて、真城委員（東急プロパティマネジメント株式会社）より、今回の商号変更のポイントについて説明があった。

(5) JST「令和 3 年度共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」申請について

遠藤副会長から、資料 5 に基づき、本コンソーシアムをベースに防災科学技術研究所と筑波大学を中心に COI-NEXT に申請予定であること、また採択時にはコンソーシアム参画機関にも協力を求めたい旨の説明があり、承認された。続いて、林会長から、今回の提案内容の説明とともに、6 月 12 日（土）・18 日（金）に開催予定の全ステークホルダーによる「ビジョン・ターゲット検討会合」への参加要請があった。

(6) その他

特になし。

【報告事項】

(1) 令和 3 年度参画機関におけるインターンシップについて

遠藤副会長から、資料 6 に基づき、今年度筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムの学生のインターンシップを受け入れ予定の参画機関について報告があった。

(2) 第 3 回シンポジウム開催報告

遠藤副会長から、資料 7 に基づき、2 月 3 日（火）に開催された第 3 回シンポジウムの参加人数やアンケート結果について報告があった。

(3) 第 15 回幹事会（R3.2.3）について

遠藤副会長から、資料 8 に基づき、第 15 回幹事会の議事について報告があった。

(4) 第 16 回幹事会（R3.4.13）について

遠藤副会長から、資料 9 に基づき、第 16 回幹事会の議事について報告があった。

(5) 情報交換会（FD 研修会）の開催について

遠藤副会長により、資料 10 に基づき、第 4 回総会後に予定している情報交換会「レジリエンス研究教育推進コンソーシアムと筑波大学によるリカレント教育の実践」の告知があった。また、本情報交換会は、筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムの FD 研修会も兼ねて開催する旨の報告があった。

(6) その他

特になし。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

【報告事項】

(1) コンソーシアム参画機関向け学位プログラムリーフレットの改定について

岡島委員から、資料 11 に基づき、コンソーシアム参画機関所属者向けの学位プログラムリーフレットを改定した旨の報告があった。また、今後各参画機関へ送付予定の本リーフレット紙媒体や学位プログラムウェブサイトに掲載しているデータを活用し、各機関内で学位取得に興味がある者に周知してほしい旨の依頼があった。

(2) コンソーシアム参画機関からの令和 3 年度入学者について

岡島委員から、資料 12 に基づき、今年度は防災科学技術研究所から 1 名の職員が博士後期課程に入学した旨の報告があった。

(3) 令和 3 年度指導体制について

岡島委員から、資料 13-1~13-2 に基づき、今年度協働大学院教員が主指導または副指導を担当する学生数についての報告があり、特に博士前期課程に、外部大学から 2 名の学生が防災科学技術研究所の酒井直樹教授（協働大学院）を主指導に指名して入学した旨の報告があった。

(4) 「令和 2 年度教育に係る学長表彰」受賞報告

岡島委員から、資料 14 に基づき、本学位プログラムの取り組み『コンソーシアムを核とした協働大学院方式による大学院学位プログラム教育課程の構築』が、筑波大学の学長表彰を受賞した旨の報告があった。

(5) 「原子力規制人材育成事業」のカリキュラムについて

岡島委員から、資料 15 に基づき、今年度から始動した「原子力規制人材育成事業」の教育課程（レジリエンス原子力コース）について、修了要件や授業科目の説明があった。

(6) 令和 3 年度春学期における対面授業及びオンライン授業の実施について

岡島委員から、資料 16-1~16-2 に基づき、春学期の授業については、各科目の特性や教室確保状況を考慮しつつ、適宜対面とオンラインを併用して実施している旨の報告があった。また、協働大学院教員及び非常勤講師の担当授業については、世話人教員との調整により実施方法を決定し、授業を行っている旨の報告があった。

(7) その他

特になし。

以上